



MITO MAIL NEWS

水地申 13号 第1回交渉③

現場で働く労働者を考慮しない業務運営の是正と、「ブロック作時帯線路作業」の安全再確立・適正適用を求める緊急申し入れ

2項 続き

組 合

- 現場で言えば運転状況確認と言えば駅長等に電話し運転状況を確認する行為である。現場のパートナー会社でもブロック作時帯線路作業の際に CTC に通常通り運転状況確認を行った事実を聞いている。しかし、線路作業要領には知得可能な媒体で行うとなっているが現場での周知状況としては貫徹されていない。現場では知得可能な媒体とは何かと言われている状況である。このような現実を見れば、既に本実施が始まっている中でマニュアルが整備されていないということはこれまでにない事象である。マニュアルも改訂され、それに基づいた社員説明がされ、意見や質問があり、それをQ & Aに盛り込んで、周知がされて、本実施を迎えるものだと考えている。理解してから進めない今回の施策は安全に直結する問題であり、通達が本実施4日前に出され、未だなおマニュアルが出されていない現状は重大な問題である。
- 通達文書発出時期やマニュアル改変の時期などは課題だとは捉えないのか。
- パートナー会社における説明会のやり方として、これまでであれば全社員が支社の会議室に呼ばれ、主幹課から説明会を聞いていたが、今回は一部の社員が呼ばれその社員が職場で教育を行う手法となっている。理解にアンバランスが生まれている。どのように捉えるか。
- 現場でブロック作時帯線路作業の内容の理解にアンバランスが発生していることは受け止めていただきたい。また説明会として、主幹課から現場長、現場長から科長、科長から社員への伝達した説明会のやり方では伝達がうまくいかないこともあり、そのようなことを背景に理解にアンバランスが生まれている。安全に直結する事象であり問題である。
- パートナー会社からの声としては「事前打ち合わせや現場打ち合わせが無くなった事により、現場での不安と本当にいいのか」との声が上がっている。現場で安全にできると考えている人は少ない。
- 現場での理解のアンバランスが発生しないためにも、本実施前にはマニュアルを整備し、マニュアルを使用した説明を行い、質問や疑問に対するQ & Aを返しながらか本実施を迎えることが必要だという主張だ。

会 社

- 貴側の主張は否定するものではない。運転状況確認に関しては試行と本実施の文書から一貫して変わるものではない。
- 運用は課題ではない。説明する側の資質も関係するが、全社員に復命させていただいたことを確認した上で、通達も試行期間から変更がなく、問題があるとは報告されていない。一部の職場で問題が挙がっていることは主幹課に伝え確認する。
- 課題ではない。職場の代表者へ説明を行い、その代表者が職場で伝達をしていく運用はこれまでも行っていた。説明する側の資質もあり、下手な説明がされてもそのような場合、質問が多く寄せられ、そこに丁寧に返しているため問題ない。
- 安全に直結するという発言がされたが、運転状況確認になった背景には、事前に時間を決め、抑止をかけ、抑止された区間に作業に入ることから運転状況確認が必要なくなった。運転状況確認についての理解不足については安全に直結しない
- 意見については否定するものではない。受け止めさせていただく。マニュアルについては早急に改版し出していくよう関係部署に伝える。齟齬があった部分については関係主幹に伝え解決に努めていく。

主 要 な 議 論

確認!

安全再確立を求め、第2回交渉へ!